

# 福岡大学病院 脳神経内科 卒後臨床研修プログラム

## I. 特徴

福岡大学病院脳神経内科では急性期から慢性期まで多くの神経疾患の診療を行う環境にある。また、老年内科疾患の診療も行い、院内関連諸科、近隣の医療機関や介護・福祉施設との連携も計られ、疾病治療のみでなく患者・家族のQOLにも配慮した治療を行っている。このため必然的に神経内科領域のみでなく一般内科的要素を育てる幅広い研修が可能である。

## II. 診療科概要

脳神経内科の病床数は現在24床（4階東病棟）および4階北病棟（SCU）で、主に病棟業務を行う指導医数は4名で、年間新入院患者数は452～625名（過去5年間）である。

スタッフは、坪井義夫教授（神経変性疾患、脳卒中、プリオン病）、緒方利安准教授（脳卒中）、合馬慎二講師（認知症性疾患、外来医長）、藤岡伸助講師（神経変性疾患、医局長）、三嶋崇靖助教（神経変性疾患、病棟医長）、横手颯助教（神経内科全般）、西田明弘助教（神経内科全般）、竹下翔助教（神経内科全般）、栗原可南子助教（神経内科全般）、小倉玄睦助教（末梢神経、筋疾患）からなる。

## III. 研修目標

1. 担当医として主に病棟業務に従事して以下の神経徴候、病態を的確に把握できるようにする。  
頭痛、めまい、四肢のしびれ、高次機能障害、意識障害、けいれん発作、歩行障害、排尿障害、嚥下障害など。
2. 主に受け持つ疾患は、脳血管障害、認知機能障害、神経変性疾患、自己免疫疾患、脳炎・髄膜炎、脊髄疾患、末梢神経障害、筋疾患などである。
3. 薬物についての基本的知識を身につけ、自ら臨床場面で投薬を行う。
4. 脳神経内科リハビリテーションの実際を学ぶ。
5. 神経放射線学的画像診断と腰椎穿刺、神経伝導検査、筋電図の実際を学ぶ。
6. 患者への治療的介入を通じてコメディカル・スタッフとの協調を学ぶ。
7. 患者やその家族へのインフォームド・コンセントのプロセスを理解し、患者・家族の理解と支援の仕方を学ぶ。
8. 他科との連携、コンサルテーションの基本を学ぶ。
9. 症例検討会では症例に関連した文献を検索、検討し報告を行い、積極的に討論に参加する。
10. 研究会や学会、セミナーなどに積極的に参加する。

## IV. 研修内容

1. 担当医として指導医および上級医とともに、主に病棟業務（受け持ち患者の診察）を行う。

2. 神経画像や神経学的検査の手技の習得と結果の理解が出来るようになる、診断と治療方針について指導医及び上級医とディスカッションを行う。
3. カンファレンスでのプレゼンテーションを通して症例の病態や診断、治療方針などの的確なプレゼンテーションを行う。

## V. 週間予定

- 月：病棟業務、教授回診  
火：新患紹介、教授回診、症例検討会、抄読会  
水：病棟業務  
木：病棟業務  
金：新患紹介、病棟カンファレンス

## VI. 当科の医療安全等に係る研修医教育

毎週火曜日 15:30～

1. 医療安全：神経内科における主な手技、処置の技能と安全性
2. 神経学的診察の基本
3. 薬剤処方：劇薬と毒薬の処方（薬剤部との連携）
4. 神経疾患のインフォームド・コンセントと告知
5. 神経救急疾患の初期対応と処置
6. 不穏、せん妄などの神経疾患での精神障害に対する対応
7. 脳血管障害の診断と治療
8. 神経変性疾患の診断と治療
9. てんかんの診断と治療

**Ⅶ. 研修プログラム責任者：**坪井義夫 教授（脳神経内科 診療部長）

**副責任者：**藤岡伸助 講師（脳神経内科 医局長）

## Ⅷ. 指導医

- |        |                  |
|--------|------------------|
| 坪井 義夫  | (神経内科専門医、脳卒中専門医) |
| 緒方 利安  | (神経内科専門医、脳卒中専門医) |
| 合馬 慎二  | (内科認定医)          |
| 藤岡 伸助  | (神経内科専門医、脳卒中専門医) |
| 三嶋 崇靖  | (神経内科専門医)        |
| 小倉 玄睦  | (内科認定医)          |
| 横手 顕   | (神経内科専門医)        |
| 西田 明弘  | (神経内科専門医)        |
| 竹下 翔   | (神経内科専門医)        |
| 栗原 可南子 | (神経内科専門医)        |